



「患者の声を活かした医薬品開発」 製薬企業向けシンポジウム

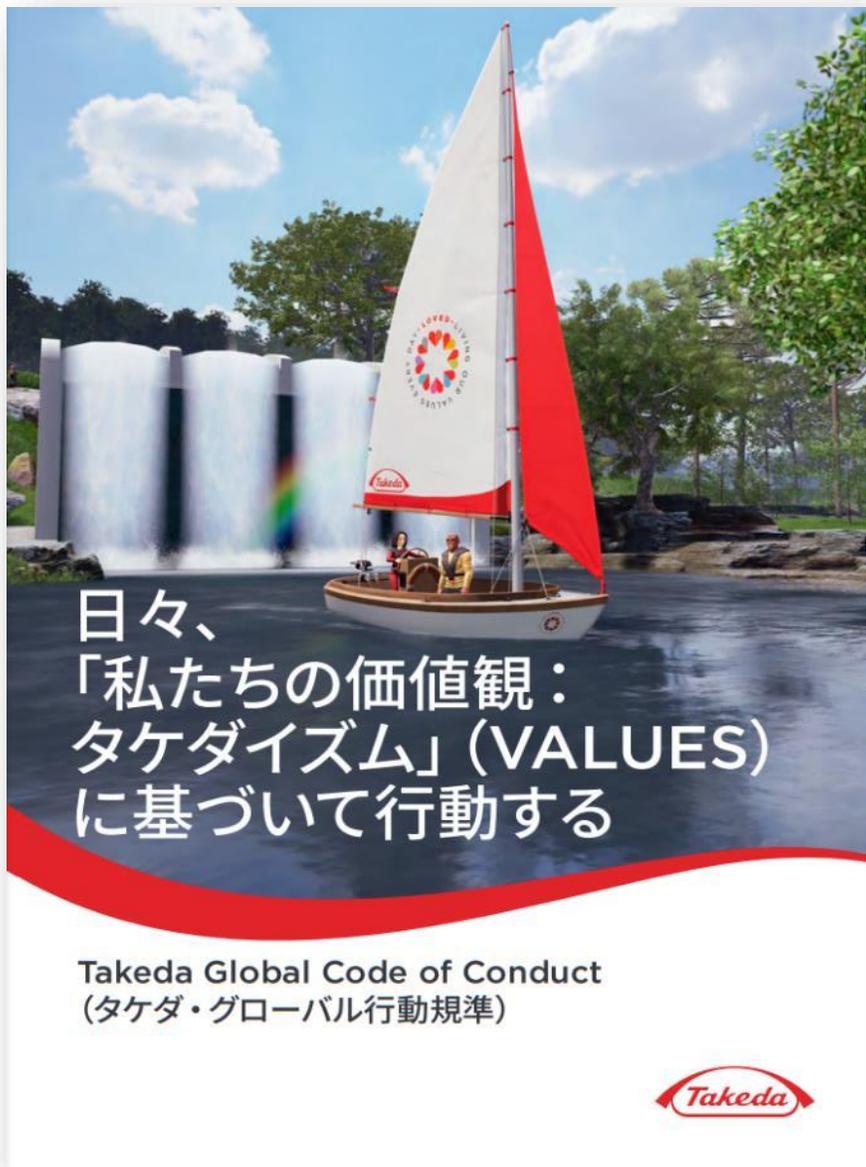


患者講演会の開催

武田薬品工業株式会社
日本開発センター戦略企画室
中前修一
2021年10月4日

Better Health, Brighter Future

私たちの価値観：タケダイズム



タケダイズムとは、まず**誠実**であること。
それは**公正・正直・不屈**の精神で支えられた、私たちが大切にしている価値観です。

私たちはこれを道しるべとしながら、

1. 患者さんに寄り添い (**Patient**)
2. 人々と信頼関係を築き (**Trust**)
3. 社会的評価を向上させ (**Reputation**)
4. 事業を発展させる (**Business**)

を日々の行動指針とします。

タケダイズムは、私たちはどのような存在か、いかに行動すべきかを示しています。

日々の業務においてギャップを感じている従業員が多い

- 患者さんとの直接の**コンタクトはない**（医師を通してのコミュニケーションが主体）
- 臨床試験担当部署でも**外部への業務委託が主流**となり患者さんの**ニーズを把握する機会が少ない**
- 業務上、**規制当局への提出物作成や対応が中心**になりがち
- **患者さんからは遠くに感じる**
- **継続的な意識付けが難しい**



ギャップを埋める取り組みのアイデア

- 患者さんや医師を招聘して**講演会**を開催
- 市民講座、患者会イベント、学会に**積極的に参加して患者さんの声を聞く**
- 社内で患者さんの**ビデオ視聴**や**部内でディスカッション**の機会を持つ

「患者さんによる講演会」



TDC-J BRIDGE



Brighter Health, Brighter Future



第5回
TDC-J BRIDGE

患者さんとの
対談



武田薬品工業株式会社

第5回
TDC-J BRIDGE

Brighter Health, Brighter Future

「患者さん中心」の
医薬品開発に
望まれること



武田薬品工業株式会社

「患者とともに考える」
Patient Centricity Day in TDC-J

2020年1月15日

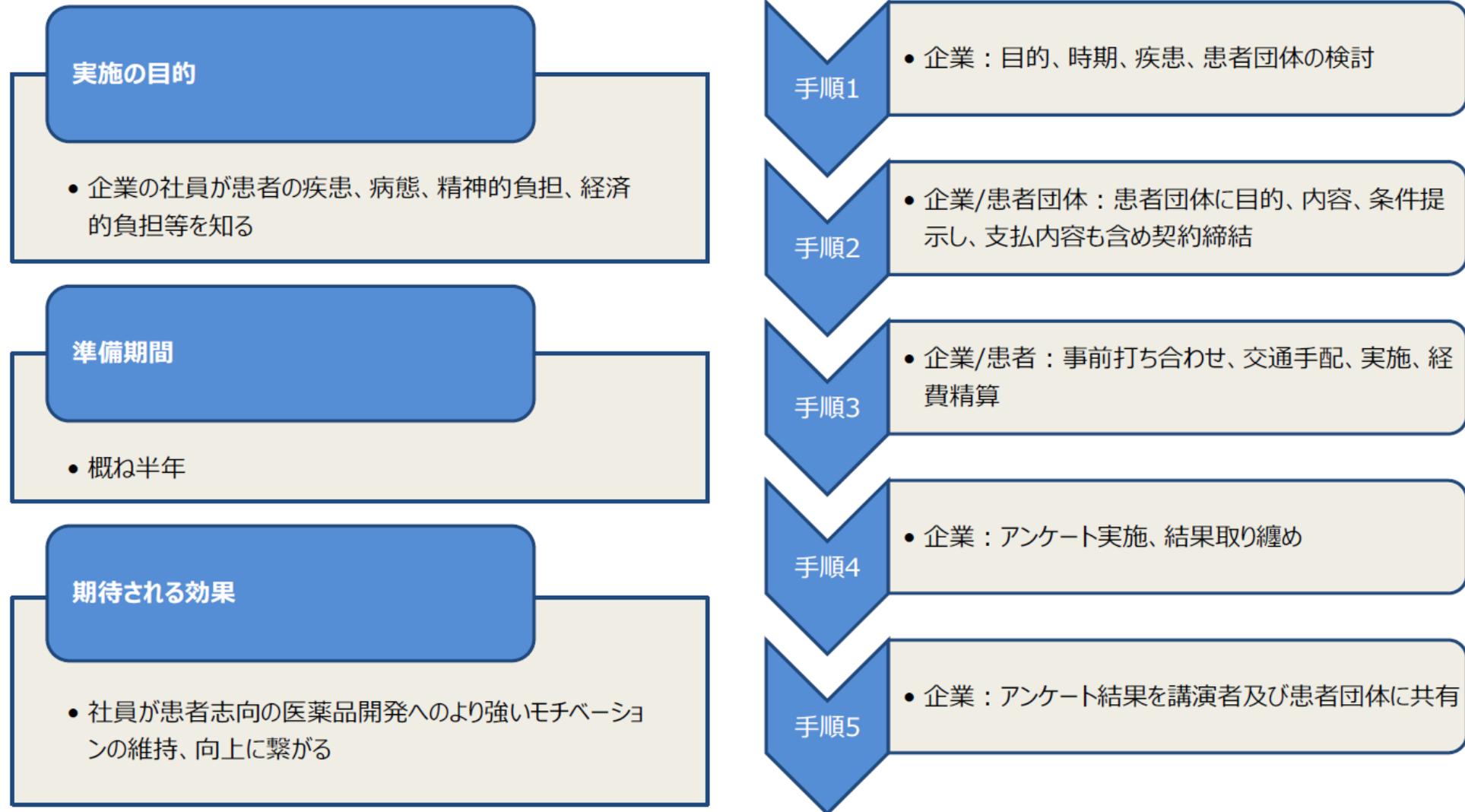


30年の
闘病体験から
学んだこと

武田薬品工業株式会社



製薬企業がPatient Centricityに基づく活動を実施するためのガイドブック による「患者による講演会」



- **目的**

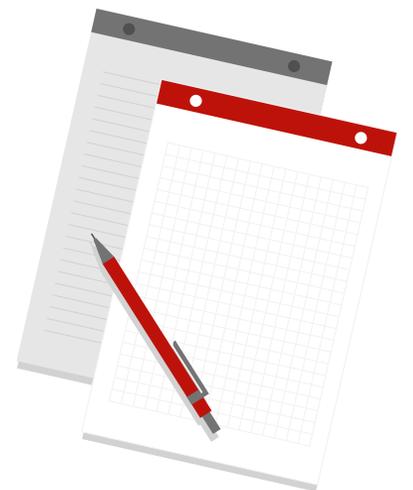
- 患者さんの生の声を聞き、疾患、闘病経験を知る
- 患者さんのニーズ・期待を把握する
- 業務へのモチベーションアップにつなげる

- **講演テーマ（例）**

- 闘病体験を通じて感じたこと、学んだこと、取り組んだこと
- 製薬会社が「Patient Centricity」に基づく医薬品開発を推進していく上で「考慮すべき」こと
- 製薬会社や行政への希望・期待・メッセージ

- **講演患者さんの選定**

- 社内ルールに基づく演者の選定
- 社内患者アドボカシー部門への協力依頼
- インターネットでの検索、講演マッチング会社への候補者調査



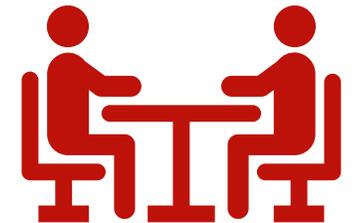
- **手続き**

- 社内ルールに従った企画書提出（コンプライアンス部門による承認）
- 患者さん/患者団体への依頼書提供、契約書締結
 - 注）講演料等の支払がある場合は透明性ガイドラインに基づく情報公開同意条項を含む



- **事前協議**

- 講演形式・進行：講演会、対話形式、パネルディスカッション形式
- 講演内容の協議（開催目的、講演テーマ）
- スライド作成依頼（事前チェックの要否、事前提出依頼）

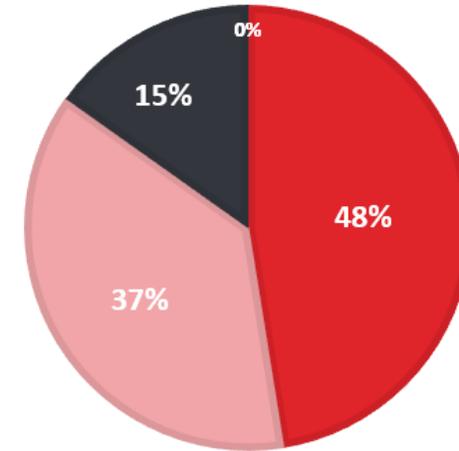


参加者へのアンケート結果



講演会講演会の印象 (第1回開催時：n=169)

- とてもよい
- よい
- 普通
- よくない
- とてもよくない



参加者コメント

- 患者さんがどのような思いで新薬を待ち望まれているかひしひしと伝わってきました。開発業務は長期間でありモチベーション維持が大変であるが、何のために仕事をしているのかを深く考えるととても貴重な経験となった。
- 患者さんの一言ひと言が非常に重く感じた。とりわけ、「製薬会社の仕事は生きる希望を与える仕事」であるというメッセージをいただき、期待に応えるべき使命を再認識した。
- 「Patient Centricity」とは何なのかを考える非常に良いきっかけになった。実際に患者さんの声を聞いて、業務に生かすことが私たちに求められていると感じました。
- 患者さんの生の声として、治験に参加したいというニーズがあることを知ることができた。

講演いただいた患者さんからのコメント



- 病気を抱えて日々生活しなければならないことを知ってもらいたい。
- これまでは製薬企業の方と話す機会はほとんどなく、聞いてもらえる機会があることだけでも意義がある。
- 実際に患者と話をしてもらいたい。患者の声に耳を傾け、患者の日常の大変さ・困っていることを知ってもらいたい。
- 治療法や治療薬の選択肢が増えることを期待している。



患者さんの声を聞いた今、次は何をなすべきか？



- 自分自身の業務、実践への落とし込み
- 開発プロジェクト以外の業務でも、その先には患者さんにつながっていることへの認識
- 医薬品開発に患者さんの声を取り入れる

＜患者さんとの協働の事例＞

- 同意説明文書、服薬日誌等の患者視点でのレビュー
- 患者ニーズのアンケート
- 疾患に対する実態調査
- 服薬しやすい剤型の意見聴取
など



ご清聴ありがとうございました



For patients, with patients